

水稻「あきたこまち」を作りこなすための7つのポイント

1. 山間部（標高300m以上）に適応する良食味品種。 8月下旬に成熟する極早生品種。
2. いもち病常発地には作付けしない。 いもち病に弱く、気象条件によって、かなりの被害を受けるので、種子消毒と病害虫防除を徹底する。

月	4			5			6			7			8			9		
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育段階・主な作業	播種期	出芽期		田植期	活着期		分けつ期	最幼穂分け期	幼穂ばらみ期	穂ぞろい期	出穂期	乳熟期		成熟期				
塩種播水子選消毒				元肥田肥施用	雑草防除			病害虫防除	穂肥施用	病害虫防除			病害虫防除	刈取				乾燥・調製
水管理	深						中干し						間断かん水					落水

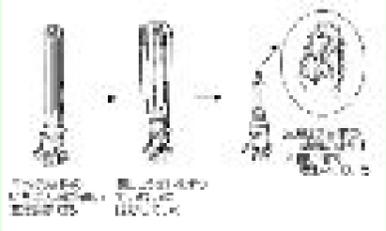
1. 健苗育成 浸種を十分に!
 種初準備: 3kg / 10a
 塩水選と種子消毒の実施
 (比重: 1.13、水20ℓに食塩4.1kg)
 浸種... 出芽しにくいため、十分な浸種
 (水温15℃で4日が目安)と
 催芽で、均一なハト胸状態に。
 播種...時期: 4月上旬
 量(ばらまき): 乾籾で100~120g / 箱
 浸種籾で120~150g / 箱
 育苗の目標(中苗)
 育苗日数 30~35日
 草丈 15cm程度
 葉数 3.5~4.0枚
 (不完全葉除く)
 温度管理・水管理
苗丈は短いので、無理に伸ばさない。
水のやりすぎ、温度のかけすぎは禁止!



出芽期	30~32
緑化期	昼20~25、夜15~18
硬化期	昼15~22、夜10~15

2. 田植え 太植えは禁止!
 田植時期 5月10日頃
 栽植密度
 条間30cm、株間18cm(18.5株/m²)
 植付本数は3~4本/株
 太植えにすると茎が細くなり、倒伏しやすくなるほか、過繁茂となり、いもち病・紋枯病の発生を助長するため。
 雑草防除(地域の慣行により実施)
 散布後7日間程度は湛水状態を保ち、落水やかけ流しをしないこと。

3. 水管理 登熟向上のために!
 中干しは必要な茎数を確保した後に、軽くひび割れするくらいまでで7日程度実施する(6月下旬)。
 根の健全化と倒伏防止のため。
 出穂後30日間は間断かん水。
 根の張りが弱く、圃場が乾き過ぎると登熟歩合が悪くなり、玄米品質が低下するため。

4. 施肥 倒伏しやすく、いもち病にも弱いので、施肥量は控えめに!
 < 幼穂の確認方法 >

 施肥量(10a当たり成分量、単位: kg)

地帯	山間部		
	窒素	燐酸	加里
元肥	3	7	4
穂肥	3	-	3
合計	6	7	7

穂肥の施用
穂肥の施用時期でも葉色が濃いので、葉色で判断するのではなく、幼穂長を確認して施用。
 < 出穂期の20日前(幼穂形成期): 主稈の幼穂長が2~3mmに達したとき。 >
 ・出穂期の20日前の1回: 緩効性肥料を窒素成分で3kg / 10a
 平年は6月30日頃
 (注) 元肥に緩効性一発肥料を使用する場合
 元肥に窒素成分で5~6kg / 10a (穂肥を施用しないこと)
実肥は、絶対に施用しない。
 玄米の蛋白含量が増加し、食味が低下するため。

5. 病害虫防除 いもち病防除を徹底しよう!

田植期
 長期残効型の箱施用剤を施用
 いもち病・イネミズゾウムシの防除

6月下旬(葉いもちの発生始めまでに)
 いもち病(葉いもち)防除。

7月中旬(穂ばらみ期)
 いもち病(穂いもち)防除。
 紋枯病の発生、ウンカ類の被害が予想される場合は同時防除。

8月上旬(乳熟期)
 斑点米カメムシ類の被害が増加しているので、登録薬剤を散布。
 出穂20日前と出穂期の2回、畦畔雑草の草刈りを実施することで、斑点米カメムシ類の侵入を少なくすることができる。

6. 収穫 適期刈取で良質米作り!

刈取適期
 出穂期の35~40日後(全体の**籾の9割程度**が黄色く変わった頃)。
 平年は8月25日頃。
 刈遅れると、倒伏しやすく、穂発芽粒・胴割粒・茶米が増加し、玄米品質が悪くなるため、適期刈取に努めること。

乾燥
 ・乾燥目標水分は14.5%。
 ・刈り取った籾の水分が高いときは、最初は低めの温度で予備乾燥。

調製
 ・高品質の米に仕上げるため、ライスグレーダー(網目1.8mm)で選別し、屑米を除くこと。

7. 土づくり 米作りの基本!

稲わらの還元
 年内に石灰窒素20kg / 10aと一緒にすき込む。稲わらの分解が遅れた場合、田植え後気温が上昇してくると急激に分解が進み、根傷みなどの生育障害が発生する。
 15cm以上の深耕
 作土が浅いと、枯れ上がりや倒伏が多くなって収量・品質とも悪くなるので、トラクターの速度とロータリーの回転数を遅くして、深耕する。
 土壌改良資材の施用
 肥料で補うことのできない養分を補給するため、稲わらをすき込む前に土壌改良資材を施用してから耕うんする。

(生育の目安)

播種期	田植期	最高分けつ期	出穂期	成熟期	稈長	穂長	m ² 穂数	精玄米重	千粒重	1穂籾数	登熟歩合
4月上旬	5月10日	7月上旬	7/18~7/24	8/22~8/28	76~81cm	18~20cm	320~350本	520~550kg/10a	22.7~23.2g	80~85個	82~86%

注) 1. 稈長、穂長及び収量構成要素:
 水稻奨励品種決定調査(平成10~14年)
 試験場所: 宇陀市榛原区(標高350m)
 栽植密度: 17.9株/m²(条間31cm・株間18cm)
 2. 出穂期・成熟期: 平成17年~21年のデータ